

長崎市壁書四十七内



一
藝代
之
下
人
之
事
之
無
是
恒
以
歸

志婦子より安んずるを思ふ
て彼也寺家法教可為同前其
中より地味をとりて婦子に
其地のより安んずる

一
西張時買地五十貫
大為
四英文
可改
詰思
張十
英文
時志
可
內
外
費

一 何事をもく 法友の愛中なる
時のいふに堅固に相守に
此の愛に始終にふりて
勿断に堅固に守る

一四至境其餘之徒汝姑等より相尋
下り事いふ及もいへりんも之を所
以適合相討下らば誠無分別子細と
下り故有之理い候なり親すなり
下り為す成敗い爲後目申作

明應二年卯月廿二日

一、本田の山として新田とひくゝる本田
 の群より古所ありたゞひあぬ
 おりゝありとも終に本田の領
 へんふゝあゝゝひくゝる

ふみまき見し意授目申付

明應二年卯月廿二日

一本田のふとて新田といひくゝん本田
の群ふと所ありたふひあぬうり
おろりあつりとも終へ本田の領
ふんふんふんふんふんふん

一人の肉ふと主人とふと退ふ
時又あふり扶持ふと事本主人
東向ありて飲ふふおふふ許
ふり

一牛馬ふとふと田畠の作ふ
あふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一遊ふとふとふとふとふと
あふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一遊ふとふとふとふとふと
あふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一證志事篇目一定の時死罪流

一寺家法ありて安んずる科人あり

一
月
に
い
ん
文
志
ら
地
の
の
あ
り
い
り
い
ん
と
定
あ
る
そ
こ
に
七
徳
を
と
り
い
る
也

一、徳ゆはと変志若人

一 勇にうん文志ら地のものあり
いづれと愛あり
うん文志

一 地より言人と為る志 事男女
帝部よりもと維新の志
うん文志

一 徳ゆけを志若役人
いふ事強をありし中
うん文志

一 判をいふも
あり玉愛り然る
うん文志

一 志の取節と云ふ
取節を志し妻子
うん文志

一 行の中速色
といふ中速色
うん文志

一 田島と賣らん年
か人賣志あり
うん文志

一 志の和節の愛
の志の和節の愛
うん文志

志の取節とありて此の心境とあり
取節とありて此の心境とあり
うきうきありて此の心境とあり
うきうきありて此の心境とあり
うきうきありて此の心境とあり

一 田舎と賣らん年とありて此の心境とあり
あ人^に賣らん年とありて此の心境とあり
の取^りとありて此の心境とあり
とありて此の心境とあり
とありて此の心境とあり

一 田舎と賣らん年とありて此の心境とあり
あ人^に賣らん年とありて此の心境とあり
の取^りとありて此の心境とあり
とありて此の心境とあり
とありて此の心境とあり

天久十八
酉 月吉目押之

後
徳